

共同研究グループ活動報告（2024 年度）

観光と美術

「観光と美術」共同研究グループ シンポジウム実施
「アートが誘引する破壊、そしてアートの名の下の破壊」

日時：11 月 18 日（月）16:00-18:00

（1）問題提起：島川崇

（2）講演① 栗原祐司 氏

国立科学博物館副館長 ICOM 日本委員会副委員長 専門：博物館学

（3）講演② 毛利勝彦 氏

国際基督教大学教養学部教授 専門：国際政治学

（4）全体討議

概要

現在、アクティヴィストと呼ばれる活動家による美術品の破壊行為が頻繁に行われている。歴史を紐解けば過去にも様々な美術品への破壊行為が行われてきたが、その破壊行為には政治的背景があることは少なくない。美術館で頻発している環境活動家による抗議行動はその一例である。美術品への破壊行為が続くと、美術館のセキュリティは厳しくなり、美術館を訪れる美術ファンや観光客にとっては好ましくない状況となる。本シンポジウムでは、最近の国内外のアートへの破壊行為について、その時代背景や観光への影響をアートの視点、観光学の視点、政治学の視点からパネルディスカッションを行ったうえで、フロアも巻き込んで自由に討議し、アートと破壊行為の本質について考えた。今までにない切り口での議論が刺激的だったと出席者からは好評であった。今後もこのテーマは引き続き取り扱っていく。

（文責：島川崇）